

# 外国語科英語学習指導案

学 級：3年1組 29人  
場 所：3年1組 教室  
指 導 者：教諭 中原 倫子

## 1 単元名 NEW HORIZON English Course 3, Unit 6 Break the Barrier

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元は、授業で、「本の中の人物から一人選びレポートを書く」という課題をめぐり、選んだ人物について対話したり、人物辞典や伝記の情報を基にレポートを作成したりしていく構成となっている。特に本文では、黒人初のメジャーリーガーとして、アメリカ大リーグの歴史を塗り替え、アメリカの人種問題に一石を投じたジャッキー・ロビンソンに焦点が当てられている。ジャッキー・ロビンソンが活躍した1940年代のアメリカでは、まだ黒人への人種差別が根強く、法律までもが黒人である彼らの生活を脅かす時代であった。そんな中、ジャッキー・ロビンソンは「やり返さない勇気」という強い精神力を持ち、野球を続けることで、彼を非難していた周りの人々の心を少しずつ変えていった。彼のその強い信念や人種差別に屈しない心を学ぶことができる内容である。また、ジャッキー・ロビンソンの生き方を通して、人権や平和を考えたり、自分のこれからの生き方についても深く考えたりすることができる題材である。

言語材料としては、接触節、関係代名詞が取り上げられている。接触節や関係代名詞を使うことで、生徒が身近な人や身の回りのものについてよりの確に説明することが可能になる。

本単元の題材や言語材料から英語で自分の考えや意見を表現することに興味をもっている生徒たちにとって、コミュニケーションへの興味・関心を高めるのに適した題材であると考えられる。

### (2) 生徒観

本学級は、明るく元気で、前向きに様々なことに取り組む生徒が多い。授業においても、他の生徒の意見や考えを受け入れ、互いに助け合いながら学習することのできる雰囲気がある。「話すこと」「書くこと」については生徒の意欲の向上が見られる。一方で生徒の知識や技能の定着には個人差があり、英語による表現活動に対して苦手意識をもつ生徒も多くいる。そのため、表現活動の際には生徒一人一人の必要に応じた指導を行いながら、ペア活動やグループ活動等を積極的に取り入れ、互いに高め合えるような学習形態を工夫するようにしている。

全国標準学力検査の中領域分析によると、「英文を正しく読み取る」、「テーマに沿ってスピーチをする」、「適切な表現を用いて書くこと」においては全国平均をやや下回っており、まとまりのある英文を読んで理解すること、まとまりのある文を適切な語句や表現を用いて話したり、書いたりすることを苦手としている生徒が少なくない。このため、自分の考えを表現する上で基盤となる語彙・文構造の定着を図る工夫をしている。具体的には、既習の表現の中から活用度の高いものを選び、ペアでの帯活動を行ってきた。学んだことを繰り返し活用する場を設けることで、語彙・文構造の定着を図っている。本単元の学習においては、ジャッキー・ロビンソンの業績や生涯についての自分の考えや意見を述べたり、これからの自分の生き方について述べたりするために必要となる基礎的・基本的な表現の定着を図りたい。

### (3) 指導観

題材の特性を生かし、ジャッキー・ロビンソンが活躍した20世紀半ばのアメリカの社会状況を踏まえつつ、不当な差別に立ち向かった彼の業績を理解し、彼の生き方についての感想やこれからの自分の生き方を述べるようになるための学習を展開したい。そのために、次の2点を指導の重点と考えた。第1に、読んで理解したことについて自分の考えを書いたり、話したりする4技能を統合的に活用する活動の設定である。具体的には、自分の意見を書く際、教科書の英文を必要に応じて生かしながら表現させる活動を行う。第2に、自分の意見を述べるために必要な基礎的・基本的な語彙や表現

方法を身に付けさせる活動の設定である。具体的には、本文中の様々な場面について自分の考えを述べるができるようになるために帯活動（Expression Training）を行う。これは単元を通して段階的に英文を書く活動である。単元を通した指導を行う中で、学習形態を工夫しながら、自分の意見を英語で適切に表現する練習を重ねさせる。こうした活動を通して、自分の意見を整理し英語で分かりやすく表現する方法を学ばせたい。

単元全般の指導の流れとしては、次のように考える。第1時から第2時までは、新出語句と新出文型の定着を図るとともに、20世紀半ばのアメリカ社会の状況を含め、ジャッキー・ロビンソンがどういう人物なのか大まかに理解させたい。第3時から第6時では新出語句、新出文型の定着とジャッキー・ロビンソンの偉業や生涯についての理解を通して、彼の生き方についての自分の気持ちや考えを引き出す活動を行いたい。第7時から第9時までは、第1時から第6時までの学習を踏まえて、ジャッキー・ロビンソンの生き方を通して考えた自分の意見をまとまりのある文章で述べる表現活動を工夫する。

言語活動においては、ICTを効果的に活用し、ペアやグループでの活動を取り入れながら、自分の学習状況について振り返る場面も設定する。このことにより、生徒同士が互いに関わり合いながら、意見交換等を通して、見通しをもって学習を進めることができると考える。

### 3 単元の指導目標

- 間違ふことを恐れず、積極的に自分の考えなどを話したり書いたりしようとする態度を育てる。
- ジャッキー・ロビンソンの生き方について自分の考えを表現させる。
- ジャッキー・ロビンソンの生き方に関して感想を述べたり、その理由を示したりできるよう内容を理解させる。
- 接触節や関係代名詞の用法を身に付けさせるとともに、自分の考えを述べる表現形式について確認させる。

### 4 単元の指導計画

#### (1) 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れず、自分の気持ちや考え等を簡単な文構造で表現しようとしている。 ② 教科書の本文や辞書、プリントの例文等を用いて表現しようとしている。	① ジャッキー・ロビンソンの偉業や生涯等について自分の意見を書くことができる。 ② 伝えたい内容を整理し、まとまりのある英文を書いたり、話したりすることができる。	① 教科書の本文を読んで、ジャッキー・ロビンソンが生きた時代の社会状況や彼の心情を正しく読み取ることができる。 ② ジャッキー・ロビンソンの行動や心情について自分の考えを持てるような読みができる。	① 新出の接触節や関係代名詞を含んだ英文の文構造を理解している。 ② 自分の考えを効果的に述べる形式を理解している。

#### (2) 指導と評価の計画

ET : Expression Training

時間	指導内容	評価規準
1	<b>【目標】</b> 身近な人や物について紹介しよう。① ・ 帯活動 I Q and A ・ スキーマの形成および単元の学習計画の確認 ・ Starting Out の新出語句や文構造の理解 ・ 接触節を用いた表現活動 ・ Starting Out の内容理解と音読練習	エの①

時間	指導内容	評価規準
2	<p>【目標】身近な人や物について紹介しよう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ Dialog の新出語句や文構造の理解</li> <li>・ 主格の関係代名詞 who を用いた表現活動</li> <li>・ Dialog の内容理解と音読練習</li> <li>・ 帯活動 II ET: ジャッキー・ロビンソンについての自分の感想を表現する。</li> </ul>	エの①, ② イの①
3	<p>【目標】身近な人や物について紹介しよう。③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ Reading for Communication の新出語句や文構造の理解</li> <li>・ 主格の関係代名詞 which を用いた表現活動</li> <li>・ Reading for Communication の内容理解と音読練習</li> <li>・ 帯活動 II ET: ジャッキー・ロビンソンの業績についての自分の感想や考えを表現する。</li> </ul>	イの① ウの①, ② エの①, ②
4	<p>【目標】ジャッキー・ロビンソンを取り巻く社会状況と彼の強い精神力について理解を深めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ Reading for Communication の復習</li> <li>・ 題材に関する映像や資料を活用した内容理解</li> <li>・ 帯活動 II ET: ジャッキー・ロビンソンの強い精神力についての自分の感想や考えを表現する。</li> </ul>	イの① ウの①, ② エの②
5	<p>【目標】身近な人や物について表現しよう。④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ Reading for Communication の新出語句や文構造の理解</li> <li>・ 目的格の関係代名詞 that (which) を用いた表現活動</li> <li>・ Reading for Communication の内容理解と音読練習</li> <li>・ 帯活動 II ET: ジャッキー・ロビンソンの生涯についての自分の感想や考えを表現する。</li> </ul>	イの① ウの①, ② エの①, ②
6	<p>【目標】ジャッキー・ロビンソンから学んだことを基にこれからの自分の生き方について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ Reading for Communication の復習</li> <li>・ キング牧師や公民権運動についての理解</li> <li>・ 帯活動 II ET: ジャッキー・ロビンソンから学んだことを基にこれからの自分の生き方について表現する。</li> </ul>	イの① エの①, ②
7	<p>【目標】Let's Take Action! 「ジャッキー・ロビンソンの本を読みたい!」と思わせる彼の紹介文を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ 課全体の内容理解</li> <li>・ 課全体の内容を踏まえた表現活動</li> </ul>	アの①, ② イの①, ②
8	<p>【目標】学習したことを振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ Let's Take Action! の修正・発表</li> <li>・ 確認・まとめ【Review】</li> </ul>	イの②
9	<p>【目標】Unit 6 を通して考えたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 I Q and A</li> <li>・ 新出語句, 重要表現の確認・復習</li> <li>・ 課全体のまとめテスト</li> </ul>	エの①, ② ウの①

## 5 本時の実際（7／9）

### (1) 題材名 Unit 6 Break the Barrier

### (2) 学習目標

- 間違ふことを恐れず、自分の考えや気持ちなどを積極的に書こうとする。
- 課全体の内容を踏まえて、ジャッキー・ロビンソンに関する自分の考えを適切な語彙や表現を用いて6文程度で表現することができる。

### (3) 判断基準の設定

評価規準	「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」 ○ 教科書本文からジャッキー・ロビンソンの偉業や生涯について読み取り、これまでに学んだ表現を用いて、ジャッキー・ロビンソンについての正しい情報、自分の感想や考えを含めて6文以上の英文を書いている。
評価の場面	○ 展開時における本文の内容理解を基にして英文を書く場面
評価の対象	○ 読んだ内容を基にした感想や考えの記述
判断の要素	ア 内容に関する記述 イ 自分の気持ちや考えに関する記述 ウ 既習事項の活用 エ 英文の量

尺度	判断基準
B	ア ジャッキー・ロビンソンについての正しい情報を述べている。 イ ジャッキー・ロビンソンの生き方についての自分の気持ちや考えを述べている。 ウ 自分が伝えたいことを的確に表現するために既習事項を活用している。 エ 6文以上の英文で述べている。
	【予想される生徒の表現例】 I'm going to tell you about Jackie Robinson. He was the first African-American Major Leaguer. I think he is great because he broke the color barrier in the Major Leagues. He never gave up his dream. I want to be a person like him. Why don't you read this book?
	【C状況の生徒への補充指導】 ○ B状況にある生徒の作品モデルを示し、グループ活動や助け合い学習等を通して必要な文構造や語彙に慣れ親しませるなど、状況に合った表現の内在化を図る。
A	(B状況に加えて) ○ 英文が充実し、自分の考えの背景となる理由を述べている。 ○ 既習事項を活用し、多岐にわたる言語材料を使用している。 ○ 代名詞や接続詞、副詞等を効果的に用いている。
	【B状況の生徒への深化指導】 ○ すでに書いた英文をさらに良くするという視点で、今後の自分の行動についての具体的な記述やまとまりのある文章にするための表現の工夫等を行うように指導をする。

### (4) 判断基準Bに到達させるための指導

#### ア 学習課題の工夫

聞いたり、読んだりして理解した内容を踏まえ、自分の体験や知識を基に表現する学習課題を設定する。

イ 帯活動の効果的な活用

(7) 表現に必要な語彙・表現形式を身に付けさせる指導

(イ) 生徒の発想を生かすワークシートの工夫

(5) 授業の展開

⋯⋯: 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	判断基準Bに到達させるための指導
導入	10分	一斉	1 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るい雰囲気授業を始められるようにする。</li> </ul>	<p>判断基準Bに到達させるための指導</p> <p><b>イ-(7)</b> 短時間で英問英答に取り組みせ、基本的な文構造を定着させる。</p> <p><b>イ-(イ)</b> 展開後半の英文作成の際に生かせる表現を思い出させる。</p> <p><b>ア</b> 生徒にとって必然性のある学習課題を設定する。</p>
		ペア	2 帯活動(Q&A)に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで帯活動(Q&amp;A)に取り組ませる。</li> </ul>	
		一斉	3 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタラクションを通して、前時までの学習内容についての理解度を確認する。</li> </ul>	
			4 本時の学習目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習内容を踏まえながら、目標を提示する。</li> </ul>	
<p>目標 : Let's Take Action! 「ジャッキー・ロビンソンの本を読んでみたい!」と思わせる彼の紹介文を考えよう。</p>					
展開	35分	個・ペア	5 目標を達成するために必要な表現方法について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学習した内容を踏まえ、伝える場面に即して、どのような形式で表現するのが効果的かを考えさせる。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ジャッキー・ロビンソンについて興味をもってもらうためには、どのような英文を書けばよいのだろうか。</p>	<p><b>イ-(イ)</b> ワークシートや教科書の英文を活用し、既習の表現と新出の表現を用いて英文を書かせる。</p>
		個別	6 ジャッキー・ロビンソンの紹介文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までのワークシートや教科書の英文を基に、英文をまとめさせる。</li> <li>書けない生徒には、ヒントカードを配布し、英文が書けるように指導する。<b>【補充指導】</b></li> <li>早く書けた生徒には新しい視点を与え、より充実した英文を書けるように指導する。<b>【深化指導】</b></li> </ul>	

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	判断基準Bに到達させるための指導
展開	35分	グループ	7 各グループで自分の考えを 発表し合い、英文を完成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で、互いのアイデアや文章の構成を確認させ、アドバイスを参考にして、自分の意見をまとめさせる。</li> </ul>	イー(イ) 判断の要素に照らして不足する点を確認させる。
		個	【モデル文】 I'm going to tell you about Jackie Robinson. He was the first African-American Major Leaguer. I think he is great because he broke the color barrier in the Major Leagues. He never gave up his dream. I want to be a person like him. Why don't you read this book?  8 英文を発表する上で注意すべきことをグループで話し合い、練習を行う。  9 英文を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような点に注意すれば、相手に自分の思いが伝わるかを考えさせる。</li> <li>発表者には、写真やメモなどを基に発表させる。聞いている生徒には必要に応じて英文を示す。</li> </ul>	イー(イ) 発表者の英文を参考にさせる。
終末	5分	一斉	10 本時の学習内容を確認する。  11 次時の学習内容を知る。  12 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時で学習したことを確認させる。</li> <li>本時で書いた英文をさらにより良いものにできるように意識付ける。</li> <li>元気よくあいさつをさせる。</li> </ul>	